

褐斑病の発生が平年より早く、県内で広くみられています。

発生が確認されたら、速やかに特別散布を行いましょう。

現在の状況

- 7月後半の巡回調査では、発生園地率は35.5%（平年8.1%）で、過去10年のうち最も高かった（図1）。
- 特に、県中部及び県南部での発生園地率が平年と比較して極めて高い（図2）。

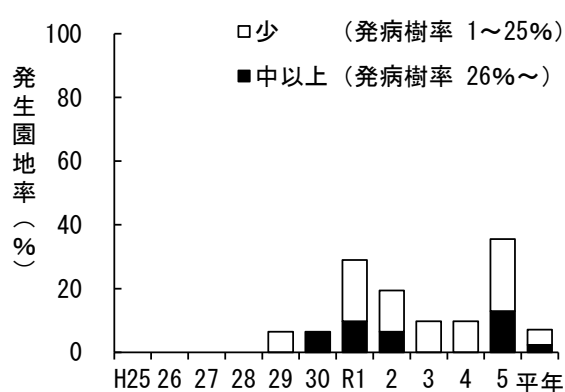


図1 褐斑病の発生園地率の年次推移（7月後半）

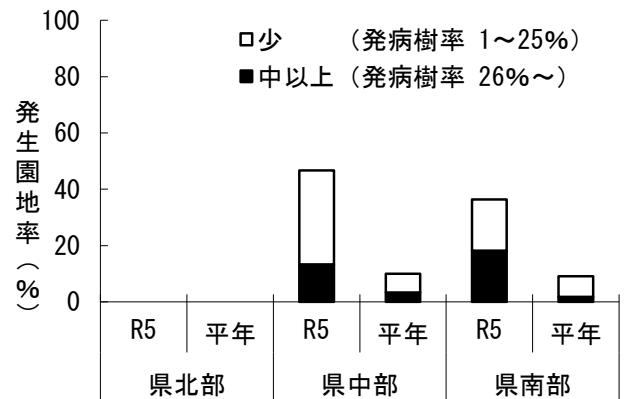


図2 褐斑病の地域別発生園地率（7月後半）

防除対策

- 定期的に園地をよく観察する。黄変葉や褐色の病斑葉が確認されたら、付近の葉を含めて観察する。本病であれば、病斑や病斑付近の緑色の部分に黒色虫糞状の粒々（分生子層）が必ず観察される（写真1）。
- 本病の発生が確認された場合は、速やかにトップジンM水和剤またはベンレート水和剤を特別散布する。
- 前年多発園（前年秋期に黄変落葉が目立った園地）で、本年、これまでに本病を対象とした特別散布を実施していない園地では、発生の有無にかかわらず、速やかに特別散布する。



写真1 褐斑病の病斑（黒色虫糞状の粒々が特徴）

☆農薬危害防止運動実施中(6/1～8/31)☆

【利用上の注意】

- 本資料は、令和5年7月19日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。
- 農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
- 農薬使用の際には、（1）使用基準の遵守（2）飛散防止（3）防除実績の記帳を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX 0197(68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/boujo/index.html>

